

島根県中山間地域研究センター 農林技術部 研究課題一覧

2025 (R7)

担当科	研究課題名	研究概要	研究期間
きのこ・特用林産科	有用広葉樹の栽培化の推進	森林資源や林地および耕作放棄地の有効活用と、林業者や農業者の地域の営農維持のため、地域に合った有用広葉樹の生産振興が必要であり、植栽後の管理方法や収穫方法など管理技術の確立を行う。	R7～9
	木質未利用資源の高価値・再利用技術に関する研究	廃菌床の新規用途を開発し、生産者負担なく、環境負荷なく、全量を処分する。これにより、美味しまね認証の審査基準に対応し、また生産技術として病虫害被害の抑制につなげる。また、廃菌床の高付加価値化によって、きのこ生産者の収入を増加させる。	R7～9
	きのこ生産における収益増加技術の緊急改良	県産品種である、エノキタケ、ブナシメジ、ヒラタケ、ナメコの各特徴を生かし、県外産のきのこに置き換わる栽培技術確立する。	R5～7
鳥獣対策科	特定鳥獣管理計画に関する生態調査・分析(ツキノワグマ)	クマの生息調査等を行い、出没を早期に予測し、学習放獣の効果や人身事故発生原因を解明する。また、調査結果を特定鳥獣管理計画へ反映する。	R4～8
	特定鳥獣管理計画に関する生態調査・分析(イノシシ)	生息状況を調査し、生息頭数を推定する。また、被害防除調査により広域柵の維持管理方法を提案する。また、調査結果を特定鳥獣管理計画へ反映する。	R4～8
	特定鳥獣管理計画に関する生態調査・分析(ニホンジカ)	生息状況を調査し、生息頭数や密度を推定する。中国山地の新植地における被害調査を実施し、造林木被害の未然防止へ繋げる。また、調査結果を特定鳥獣管理計画へ反映する。	R4～8
	造林地におけるニホンジカ、ノウサギの効率的な捕獲技術の改良	拡大していく再造林地でのニホンジカやノウサギによる被害を抑制するため、造林者が捕獲可能なワナと設置方法を開発する。	R5～7
	アライグマ等の生息適地地図を活用した密度低減手法の構築	アライグマによる農作物被害を減少させるための捕獲頭数の算出を可能にし、捕獲効率の高いワナの設置方法を開発する。	R5～7
森林保護育成科	得苗率90%が得られる特定母樹の種子生産と育苗技術の確立	発芽率の高い種子を安定的に大量供給できる特定母樹の閉鎖型採種園管理技術の確立と、得苗率を向上できる育苗技術の確立する。	R5～7
	大苗等新しい規格の苗木に対応した下刈り回数削減技術の確立	再造林地の拡大に伴い、事業量が急激に増大する下刈り作業についての軽減手法を開発する。	R5～7
	新技術の活用による省力化施業の開発	先進機器の能力を最大限に発揮させることのできる現場づくりを含めた運用条件・方法と新たな省力化技術・機器について、実証研究を行い、省力化に有効な技術・機器の現場導入と効果的活用の推進を図る。	R6～8
木材利用科	非住宅建物に対応する県産ヒノキを用いたトラス梁の開発	新たに、非住宅建物に対応する県産ヒノキを用いたしまねオリジナルのトラス梁を開発し、スギ同様に大径化が進む県産ヒノキの用途拡大を図るとともに、非住宅建物の木造化拡大により、一層の県産木材の需要拡大を図る。	R7～9
	低コスト・高品質木材乾燥技術及び木材製品高付加価値化技術の開発	低コスト化を見据えた天然乾燥と人工乾燥の組合せや、余熱を利用した低燃費乾燥により、構造材・造作材の低コスト木材乾燥技術の確立する。また、物理処理・化学処理により、内・外装材の高付加価値化技術を開発する。	R6～8